

第128回化石研究会例会報告と講演概要

11月11日（日曜）午後1時から早稲田大学の西早稲田キャンパス22号館203号室において第128回例会としてシンポジウム「日本の恐竜学最前線」が開催された。平山が世話人を務め、出席者は83名であった。各講演には質疑応答をふくめて1時間が割り当てられた。いずれの講演に関しても出席者から質問やコメントが相次ぎ、時間が足りないほどであった。午後6時から最寄りのレストランで催された懇親会にも約40名が参加するなど盛会であった。

各講演のタイトルと概要は以下の通りである。

講演1 兵庫県丹波市の篠山層群から脊椎動物化石の発見

三枝春生（兵庫県立人と自然の博物館）

2006年8月に兵庫県丹波市の篠山層群より発見され、2007年2～3月に発掘された脊椎動物化石について、現在判明していることについて述べる。ほぼ関節状態の竜脚類の尾椎および血道弓、脳函の破片、獣脚類および鳥脚類の脱落歯が確認されている。このほか、恐竜以外の両生爬虫類化石が発見されたがまだ未同定である。



三枝会員の講演での質疑応答の様相

講演2 巨大恐竜・竜脚類の古生態を類推する

平山 廉（早稲田大学）

史上最大の陸生動物でもある竜脚類の古生態については、まだ多くの謎が残されている。特に、足跡から推定される重心の位置は、竜脚類のボディプランが他のいかなる四足動物とも異なる特殊な構造であったことを示唆している。竜脚類の研究は、古生物の生態復元にあたって、安易に現生の動物を当てはめるべきでないという好例であるかも知れない。

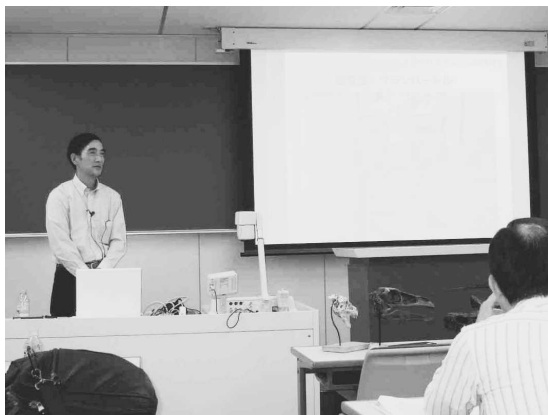


平山による講演風景

講演3 林原自然科学博物館 モンゴル共同
調査の15年とその成果

鈴木 茂 (林原自然科学博物館)

林原自然科学博物館とモンゴル科学アカデミー古生物研究センターとの古生物学共同調査はゴビ砂漠の白亜系を中心に1993年から継続しておこなわれている。この間の研究過程は東京有明パナソニックセンター内に開設した展示施設であるダイノソアファクトリー(2002-2006)で一般に公開した。今回の講演では15年間の共同調査の内容と成果を紹介する。



鈴木茂会員の講演風景

講演4 『ダチョウ型恐竜』オルニトミムス
類の進化と生態復元

小林快次 (北海道大学)

外見がダチョウに似ており、恐竜の中で最も走るのが速かったと考えられているオルニトミムス類。白亜紀に繁栄した恐竜で、その骨格化石がアジアと北米から多数発見されている。世界各地から発見されているオルニトミムス類の紹介を通して、この恐竜の進化過程と生活様式について述べる。



小林快次氏による講演風景



懇親会で挨拶する神谷英利会長

(平山 廉・早稲田大学国際教養学部)